

暮らしの健康相談

「緩和ケア」をご存知ですか？

「緩和ケア」は、「治療を目指した治療が有効でなくなった患者に対するケア」（1990年）から、「生命を脅かす疾患による問題に直面している患者とその家族に対するケア」（2002年）へとWHO（世界保健機関）は定義を修正しました。「病気に伴う心と体の痛みを和らげること」として、患者さんの状況に応じて、身体的症状の緩和や精神的な問題などへの支援が、がんと診断された時からがん治療と同時に行われることが求められています。

全人的に患者さん本人の痛み、苦しみを理解し、適切な医療用麻薬などを使用して、尊厳ある終末期に備え環境を整えます。また支える家族へのサポートも医師、看護師、薬剤師、栄養士、ソーシャルワーカーなど多職種で構成される緩和ケアチームが最善の方法を検討します。

医療チームが一丸患者と家族をケア

具体的には、治療に対する不安、死に対する恐怖、経済的な問題、

将来的な見通し、家族の負担、在宅の際の環境整備、

栄養管理など、付随する様々な心理面にも至る課題に対して、チームが一丸となつて問題解決に当たります。

また、「レスパイト入院」という、在宅介護・医療を受けている方や家族、介護者の休養を目的にした、一時的に2週間程度入院するシステムを利用する方法もあります。



今野 明 先生

1955年生まれ。85年福島県立医科大学医学部卒業、旧第一外科入局。97年今野外科院院長、2011年から東日本大震災・原発事故で避難中。震災後、(公財)仁泉会 梁川病院院長、23年8月から(同)北福島医療センター勤務。13年第20回ノバルティス地域医療賞受賞。医学博士。相馬郡医師会所属